

SHARP

Be Original.

スマートライフ実現に向けた イエナカデータ連携の取り組み

2023.3.22



長沢 忠郎 Tadao Nagasawa

シャープ(株) 新規事業推進本部 **AIoT**事業推進室 室長 2002年入社 10年間携帯・スマホアプリ開発を担当
nagasawa.tadao@sharp.co.jp

2015 CEATEC AIoTコンセプト発表



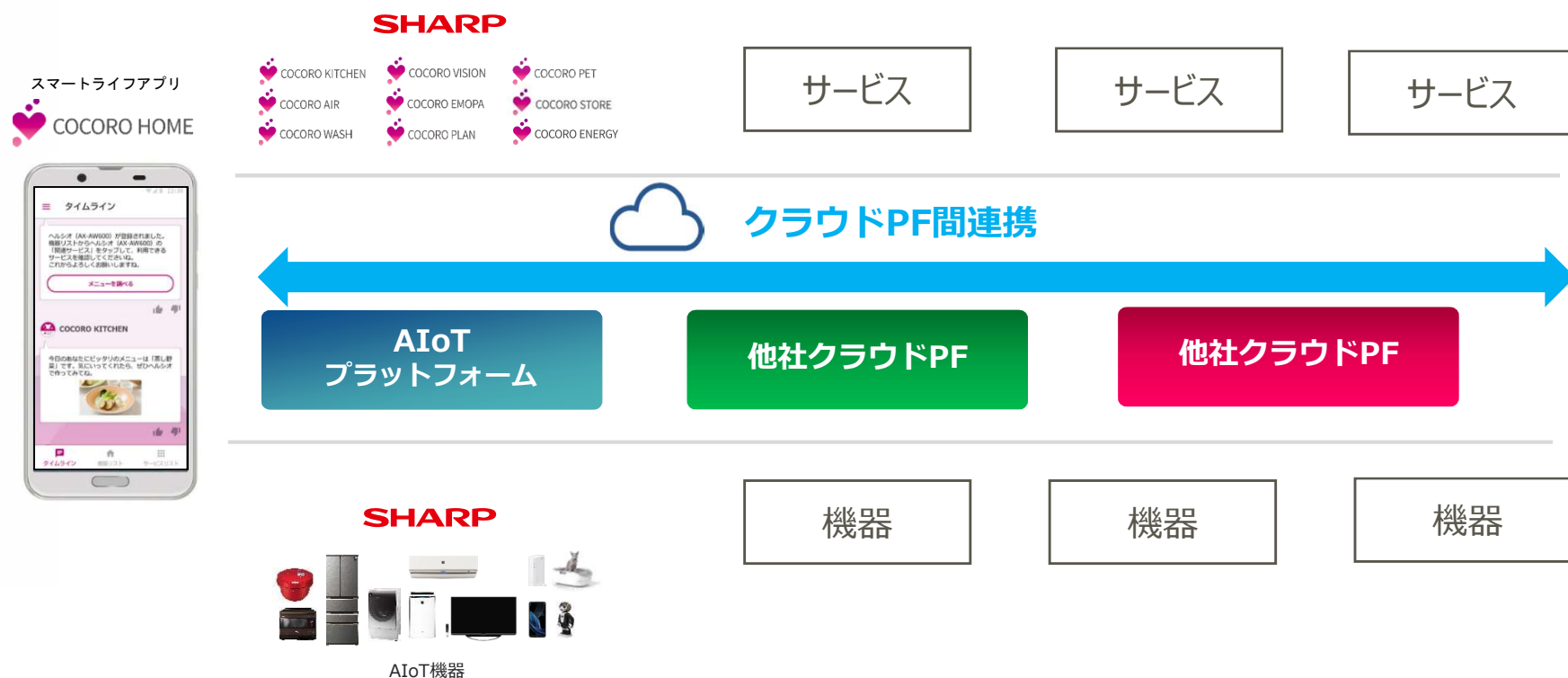
12カテゴリー, 累計800機種以上の 家電が稼働中※2023年3月1日時点



スマートホームサービス COCORO HOME



スマートライフを実現するためには対応機器・サービスの数が必要 COCORO HOMEはクラウドPF間でOPENに他社と連携

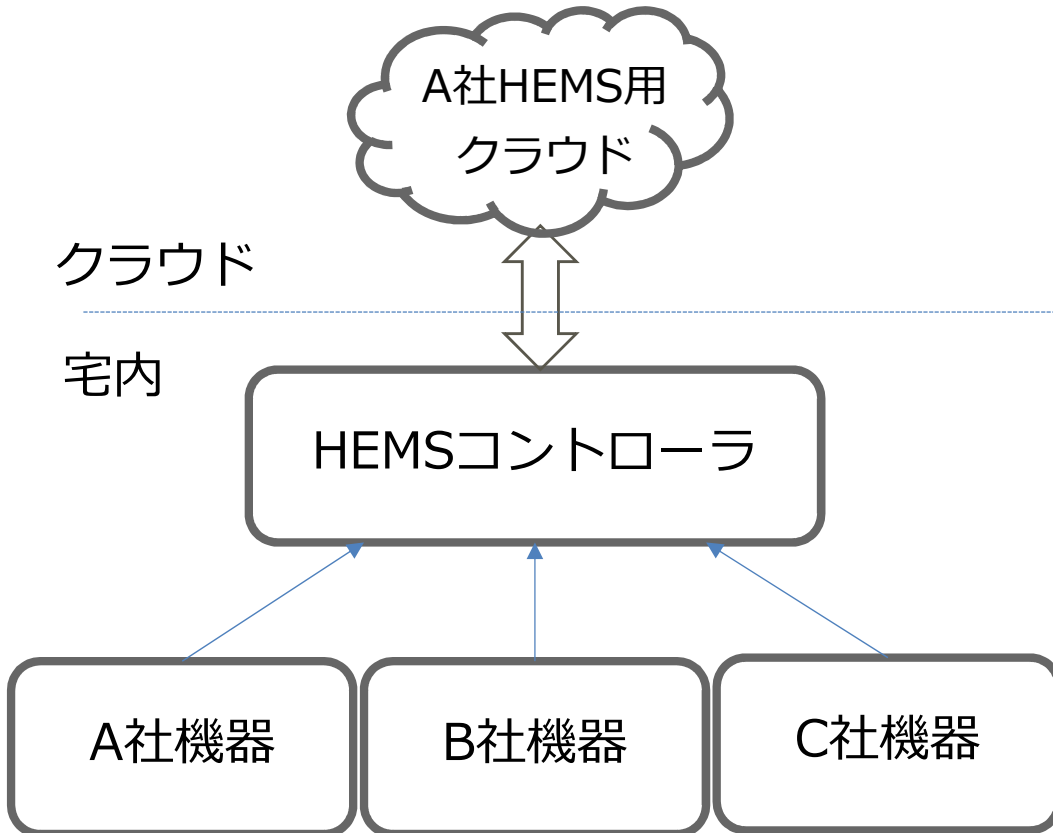


- 1. 何故クラウドPF間連携なのか？**
- 2. イエナカデータ活用に必要な視点**
- 3. 真のスマートライフ実現に向けた取り組み**

- 1. 何故クラウドPF間連携なのか？**
2. イエナカデータ活用に必要な視点
3. 真のスマートライフ実現に向けた取り組み

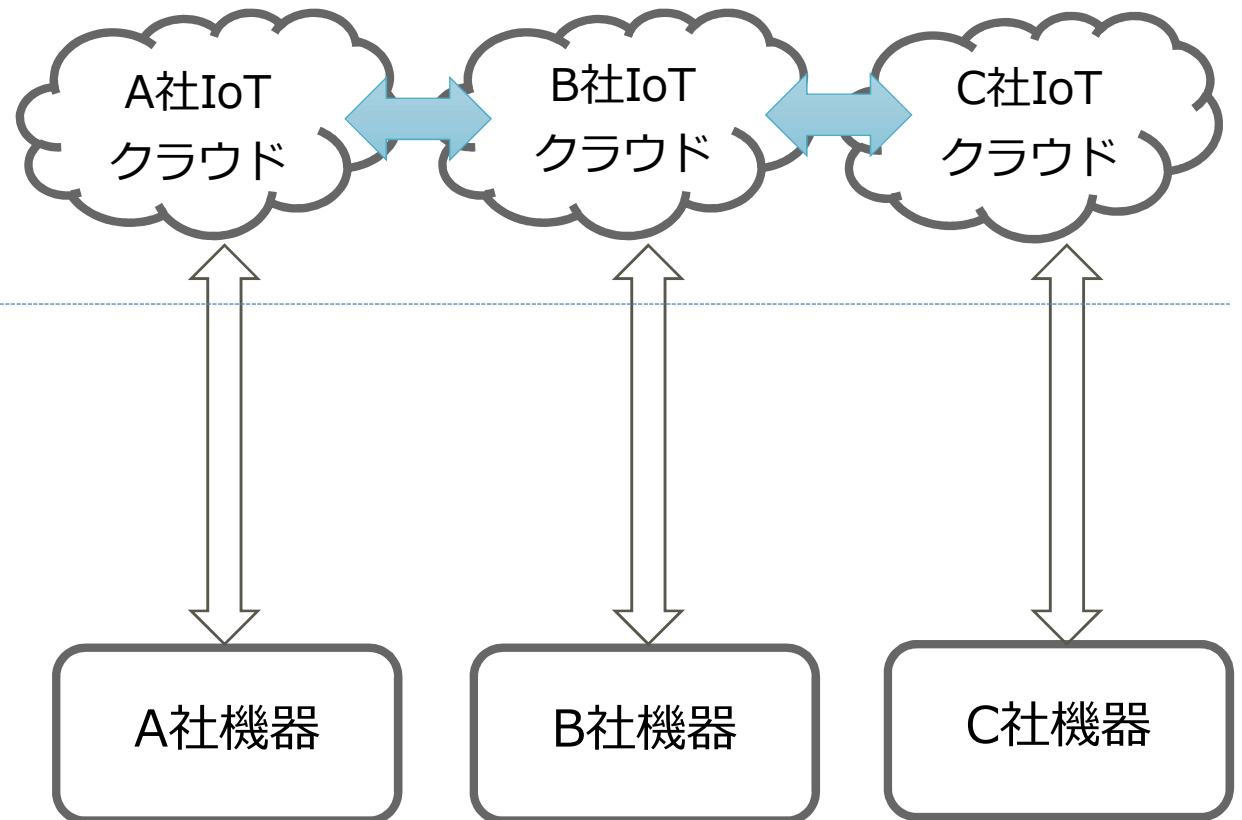
従来型HEMS

ローカルエリア連携



IoT機器

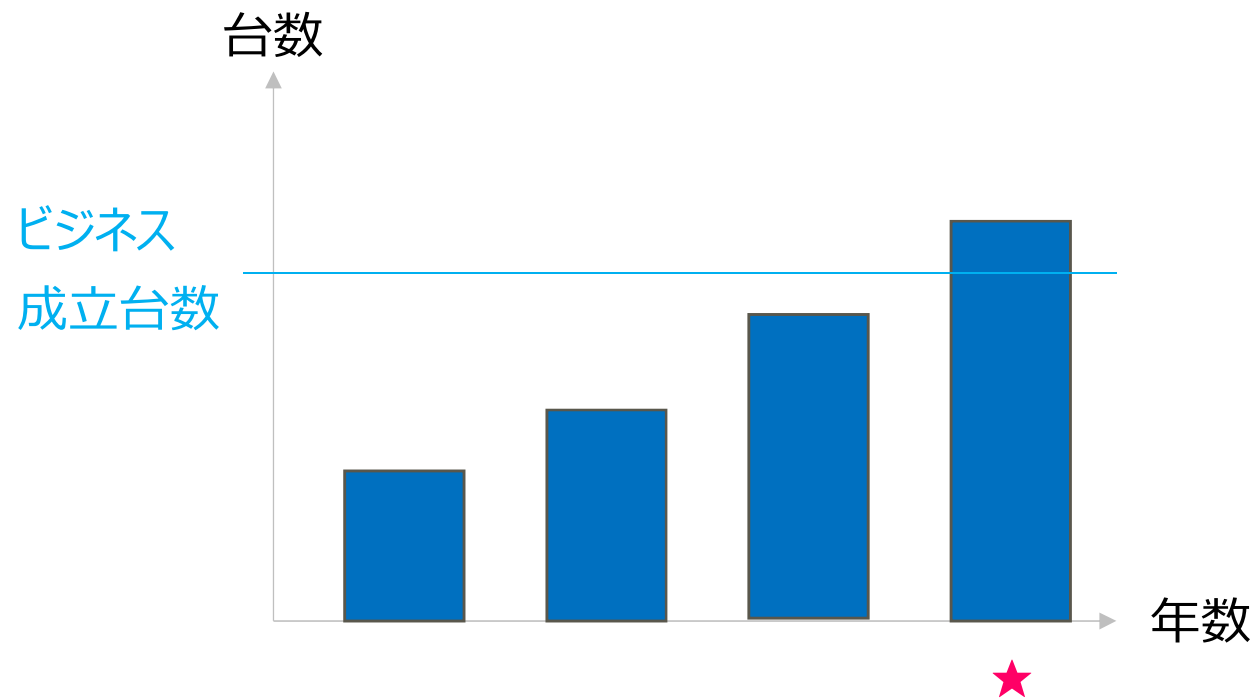
クラウドPF間連携



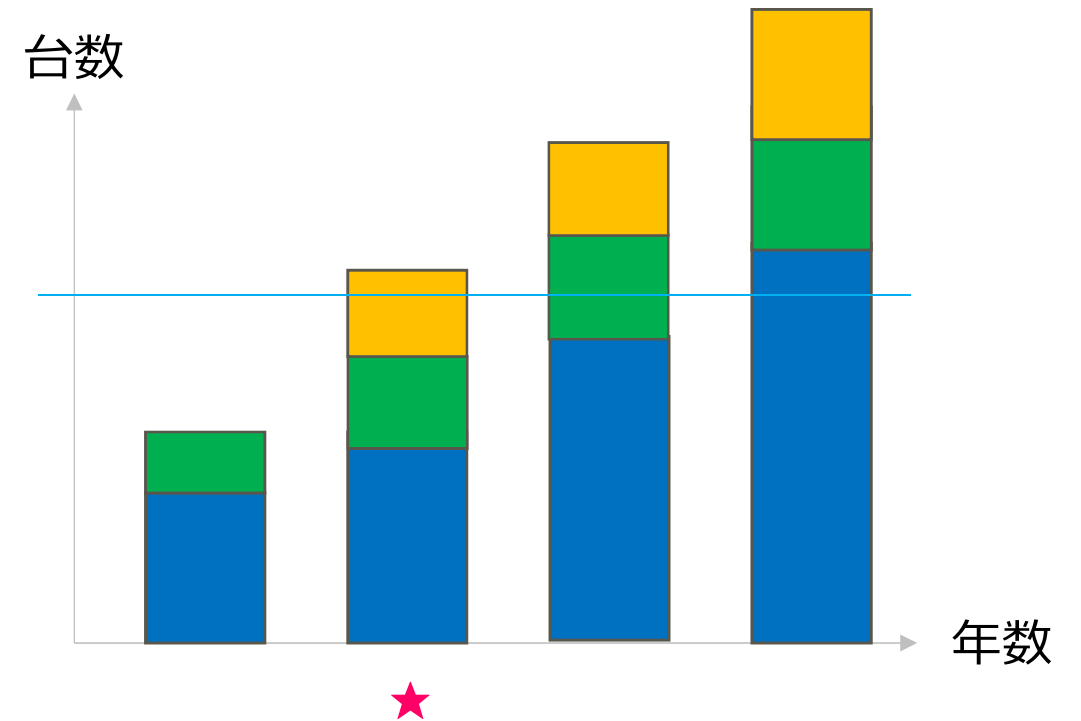
①クラウドビジネスは数が重要

複数社がクラウド連携すればビジネスに必要な台数に早く到達可能

1社のみ



複数社

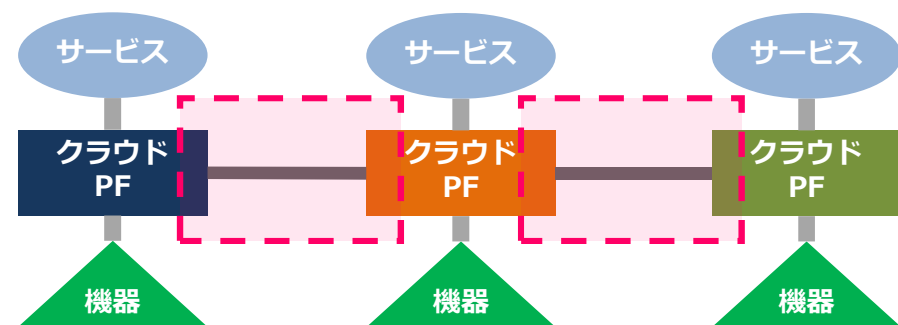


②各社が、機器・サービスを自由に進化させることができる

各社はそれぞれで機器・サービスを
進化させていきたい

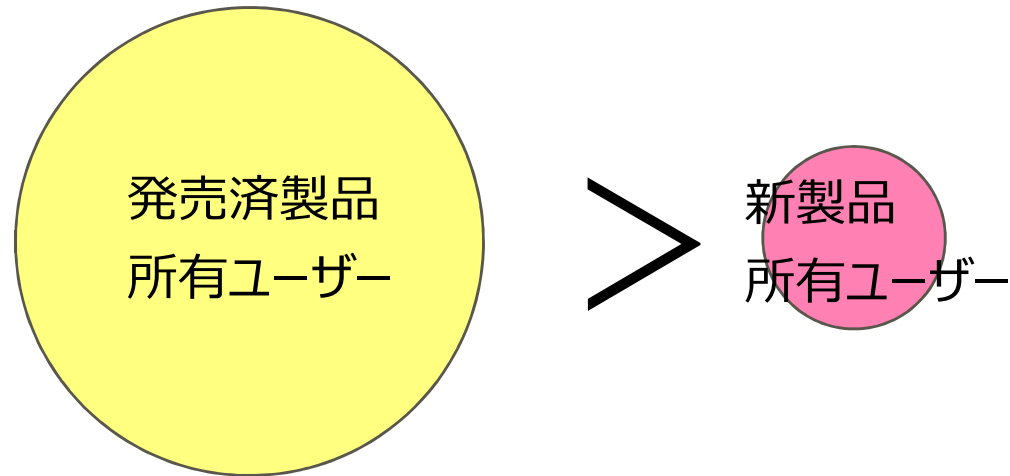


クラウドPF間で連携であれば、
機器・サービス影響を最小限にできるため
自由に進化させることができる

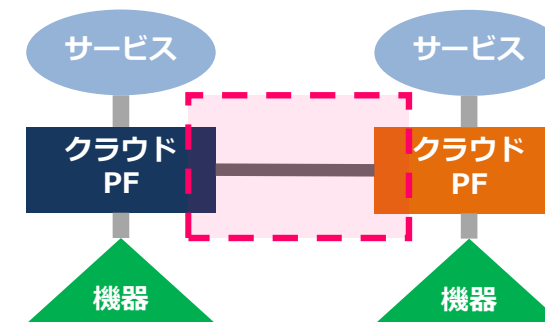


③ 新製品から対応のサービスでは、ユーザー母数が限定的 PF間連携であればユーザー母数を最初から確保出来る

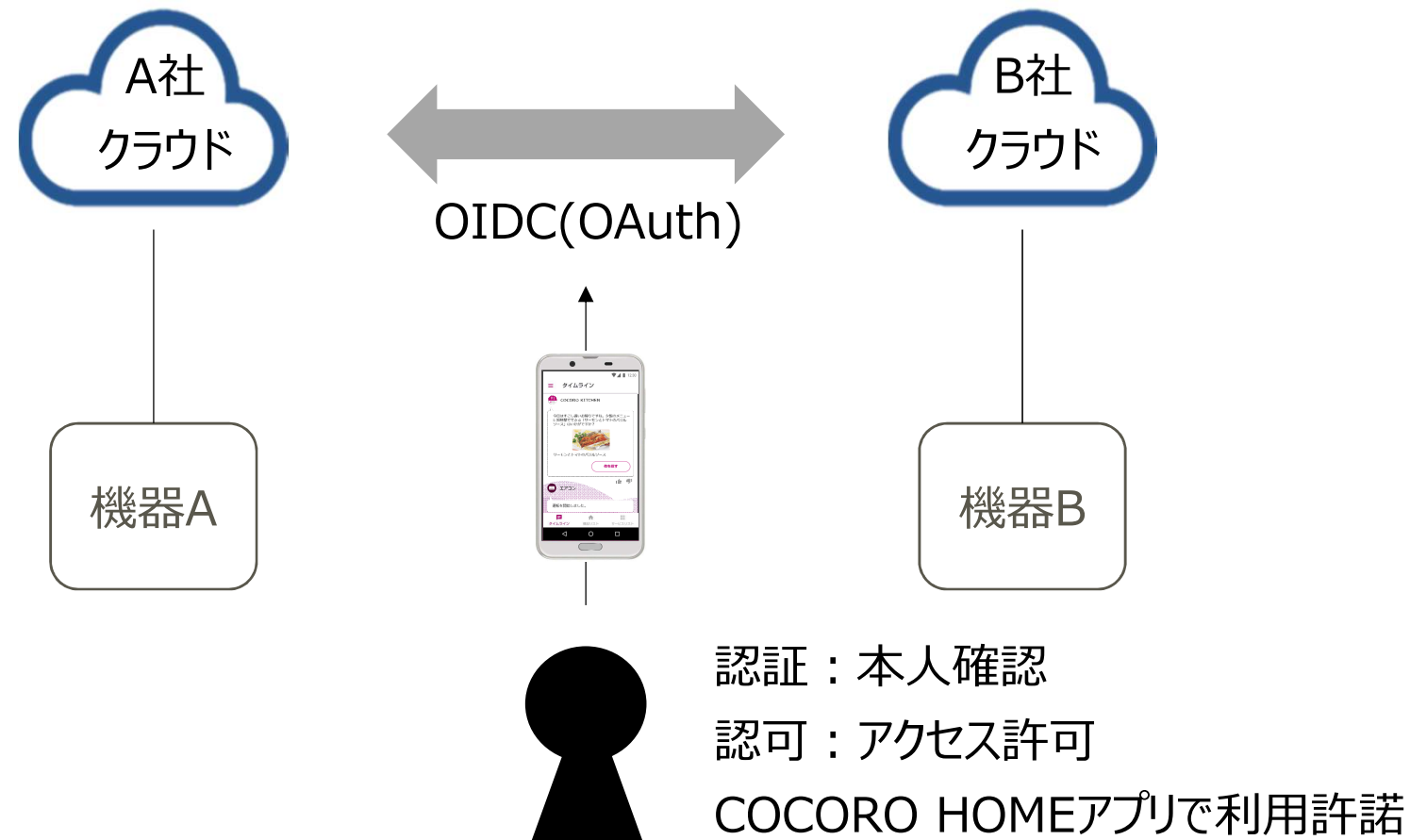
新製品よりも発売済製品の方が
ユーザー母数が多い



クラウドPF間連携であれば
発売済製品も対象に含める事が可能
最初からユーザー母数を確保出来る



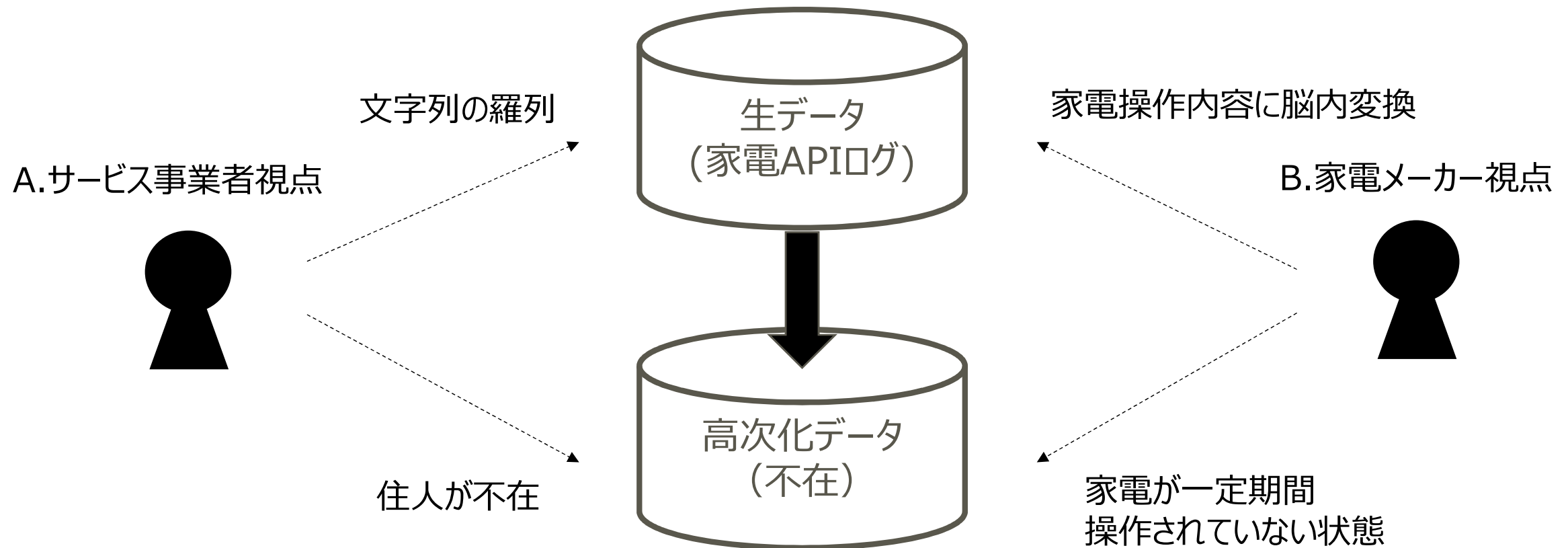
④ Open ID Connectで比較的容易に認証・認可可能



1. 何故クラウドPF間連携なのか？
- 2. イエナカデータ活用に必要な視点**
3. 真のスマートライフ実現に向けた取り組み

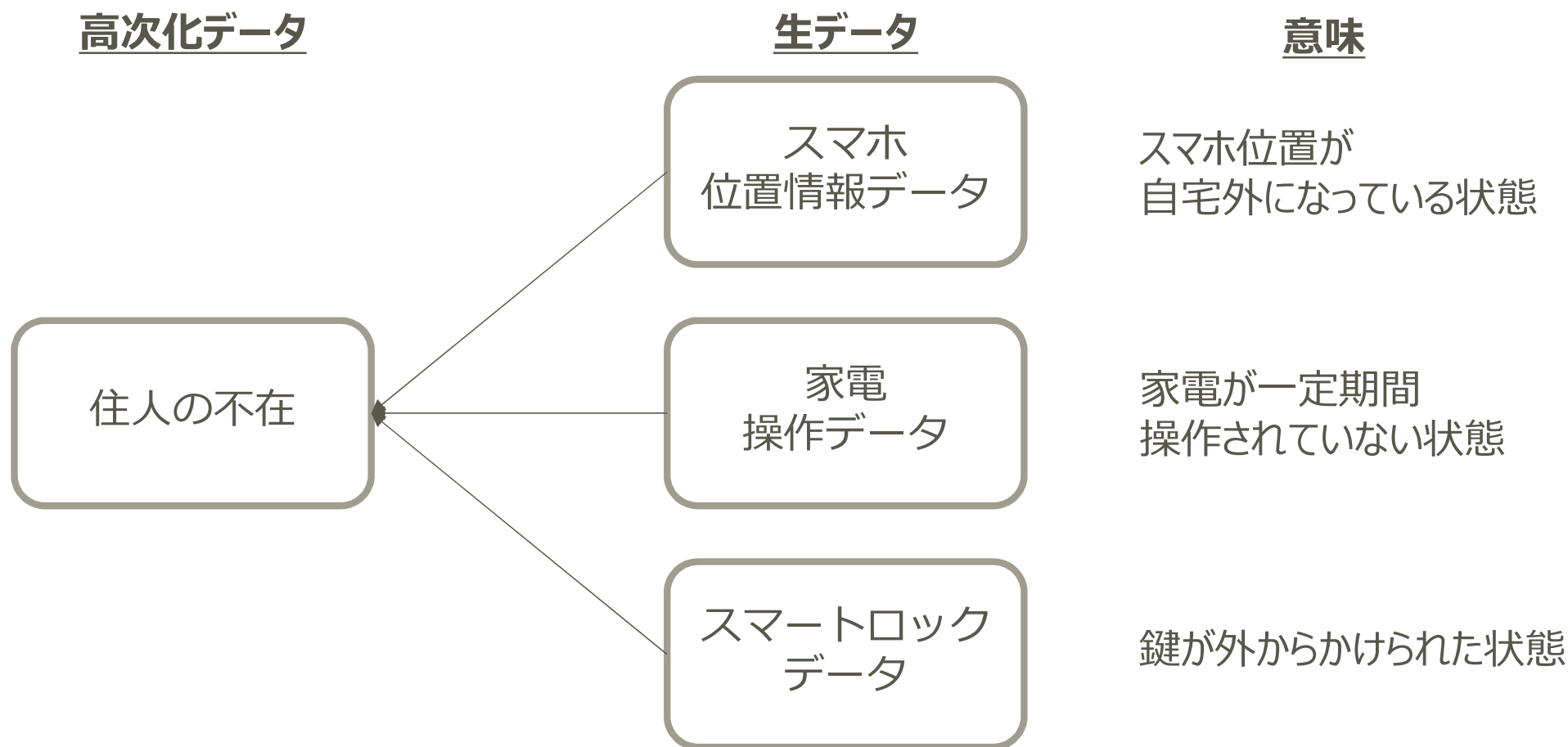
① サービス事業者と家電メーカーでは見え方が異なる

例：住人の不在を家電制御APIログで判定

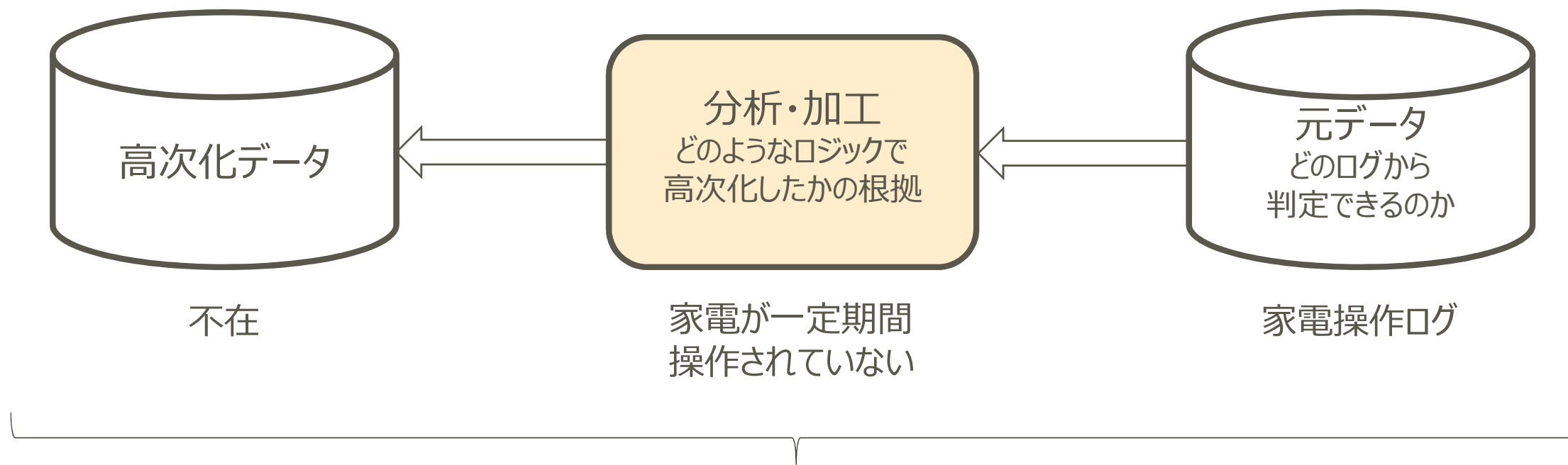


② 高次化データは家電によって意味が異なる

例：住人の不在



③だからこそ、根拠の共有が必要

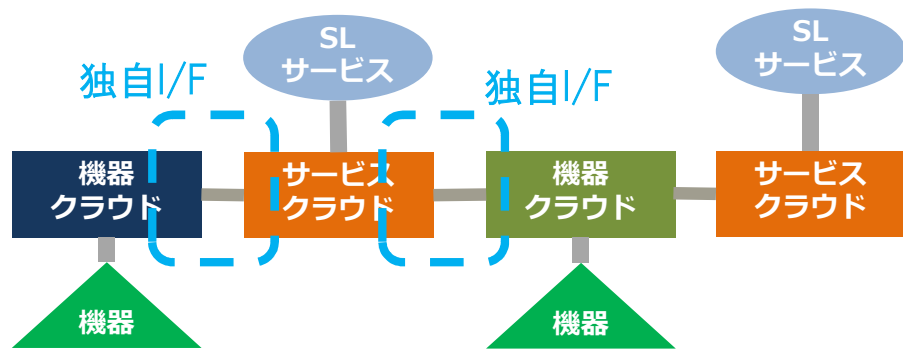


高次化データとして利用するには全て必要

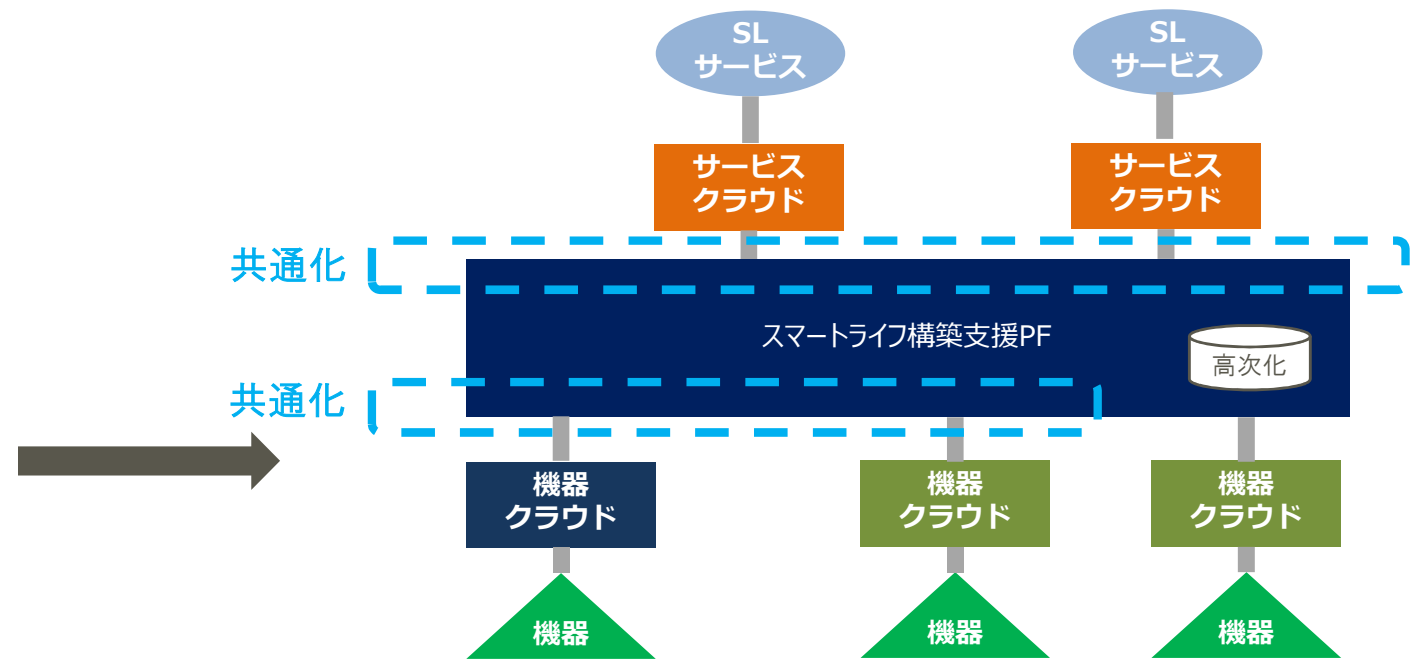
1. 何故クラウドPF間連携なのか？
2. イエナカデータ活用に必要な視点
3. **真のスマートライフ実現に向けた取り組み**

スマートライフサービス事業者様、機器メーカー双方の連携拡大のために 仲介レイヤーがI/F共通化、データ高次化支援を担う

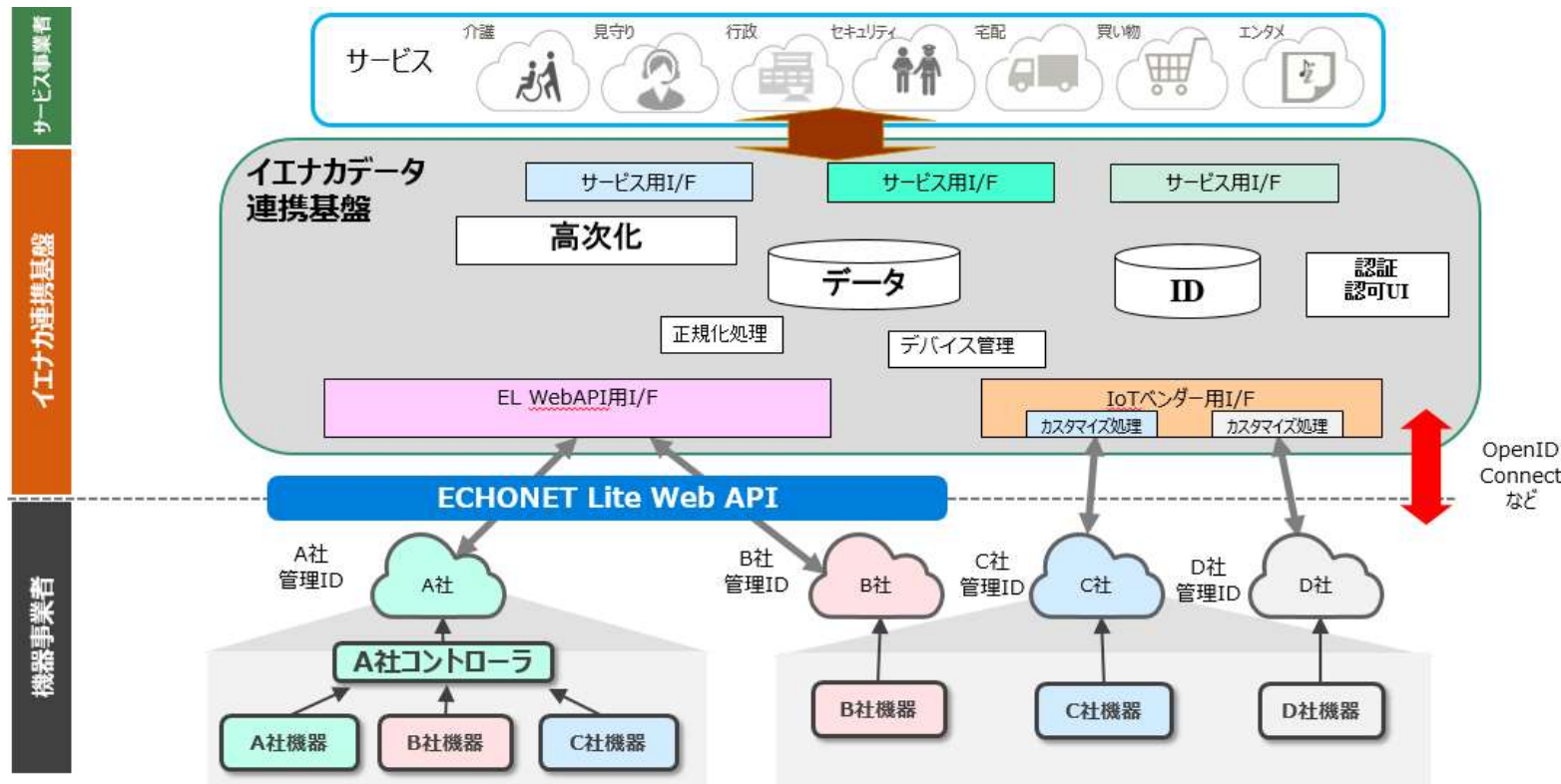
機器クラウドとサービスクラウドを横連携
各々で独自I/Fで連携



機器クラウドとサービスクラウドの間に
仲介レイヤーを追加
共通のI/Fで連携、データ高次化支援



JEITAスマートホーム部会とエコネットコンソーシアムの共同WG 「新サービス創造データ連携検討WG」において スマートライフ実現のために必要な議論が今まさに行われています。



- ・メーカー依存の無いWeb API
- ・家電メーカー/サービス事業者双方の知見を活かした高次化データ
- ・統合ID体系
- ・許諾管理 等

SHARP

Be Original.

